

令和2年度 社会福祉法人ふたば園

令和2年度事業計画に係る概況について〈法人統轄事項〉

(1) 継続事業について〈各事業拠点別 事業報告 参照〉

(2) 新規事業について

- ・子供発達支援センターからふるにおいて日中一時支援事業を開始した。

(3) 経営実施状況について

a 職員への任用替え

- ・令和2年4月1日に準職員から10名、特別契約職員から21名、合計31名の職員を正職員へ任用替えした。

また、令和3年4月1日付で正職員に任用替えする者として内部登用試験を実施し、6名（受験者数9名）を合格とした。

b 人材確保について

- ・令和2年度の新規採用（内部登用除）・退職は、以下のとおりである。

採用

区 分	正職員	準職員	特別契約職員	パート職員	合 計
さんみ苑		2名		2名	4名
からふる		1名			1名
なないろ			5名	1名	6名
ほっとわーく				1名	1名
デイサービス				1名	1名
さんみ苑グループホーム				4名	4名
ひじわらグループホーム				1名	1名
えーる				1名	1名
合 計		3名	5名	11名	19名

退職

区 分	正職員	準職員	特別契 約職員	パート 職 員	合 計
さんみ苑	2名			1名	3名
からふる	2名				2名
なないろ	1名			5名	6名
ほっとすぺーす	1名				1名
さんみ苑グループホーム	2名			1名	3名
えーる	1名			1名	2名
ひじわらグループホーム				1名	1名
ほっとすぺーす				1名	1名
合 計	9名			10名	19名

令和3年3月31日における職員の状況は、以下のとおりであった。

職種別職員状況

合計	正職員	準職員	再雇用 職員	契約 職員	パート 職 員
209人	65人	5人	5人	36人	98人

(4) 職員研修について

a 法人内部研修

- ・ 接遇研修（6月） 虐待研修（8月） 初任者研修（11月） リーダー研修（2月） ひやりはっと研修（2月） 正職員内定者研修（3月）

b 各種外部研修

- ・ 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、主には県内で開催される各種研修を中心に感染状況を注視しながら参加した。

(5) 役員会の開催状況

理事会

開催数	開催年月日	議 題
第 1 回	令和 2 年 6 月 1 2 日	平成 3 1 年度事業報告及び決算認定 定款の変更 経理規程の一部変更 令和 2 年度定時評議員会の開催
第 2 回	令和 3 年 3 月 2 3 日	令和 2 年度第 1 次補正予算案 令和 3 年度事業計画案及び収支予算 案案 役員等報酬規程の一部変更 経理規程の一部変更 契約職員就業規則の一部変更 契約職員給与規程の一部変更 パート職員就業規程の一部変更 園長及び萩市障害者支援施設さんみ苑 の施設長の任免 子ども発達支援センターからふるの施 設長の任免 土原事業所管轄事業所の施設長の任免 令和 2 年度第 2 回評議員会開催

評議員会

開催数	開催年月日	議 題
第 1 回	令和元年 6 月 2 6 日	平成 3 1 年度事業報告及び収支決算の 認定 定款の変更
第 2 回	令和 3 年 3 月 3 0 日	令和 2 年度第 1 次補正予算 令和 3 年度事業計画及び収支予算 役員等報酬規程の一部変更

(6) 監 査

- ・平成 3 1 年度決算監査（令和 2 年 5 月 2 9 日実施）

(7) 会議開催

a 施設長会議

毎月の開催を定例化するとともに必要に応じて随時開催した。法人運営上の基本的課題等について協議するとともに、今後のふたば園のあり方などについても協議を重ねた。

b 管理職務者会議

月 1 回の定例開催とし、各事業の報告やワーキング会議の報告などを受け

て協議を行った。

c サービス品質管理委員会（QC委員会）

月1回の定例開催した。

d その他

「ふたば園まつり実行委員会」及び「ほほえみ運動会実行委員会」については新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からふたば園まつり及びほほえみ運動会は中止の決定をした。

e その他

各事業毎に関係機関との連携・連絡会議に参加した。

(8) 情報提供

法人事業のインターネットを通じて情報発信・公告の拠点として、ホームページを運営

(9) 地域活動

・ふたば園まつり、ほほえみ大運動会については新型コロナ感染拡大防止のため令和2年度は中止とした

・法人が管理する施設設備等の活用推進

からふる内のおもちゃ図書館の地域開放については感染拡大に十分配慮しながら継続した。

子ども発達支援センターからふる

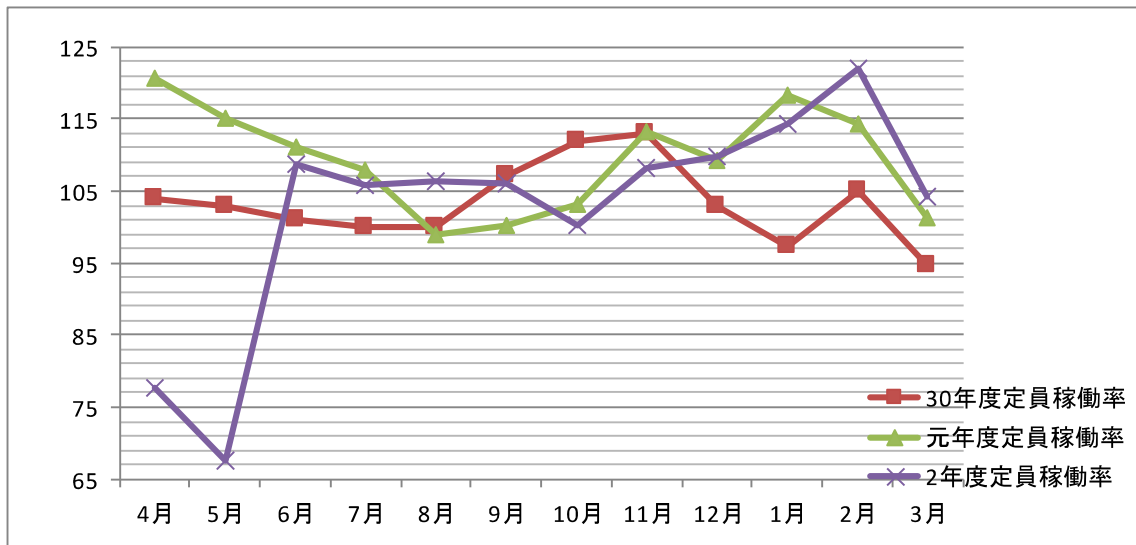
関係機関や地域との連携が強固になり、併せて発達が気になるお子さんへの早期からの支援の必要性が重要視されてきたこと等から、萩市の子ども数は減少傾向にあるものの、当センターの児童発達支援事業及び保育所等訪問支援事業についてはほぼ例年並みの利用があった。

その結果、現状ではからふるの運営や経営は安定しているが、待機登録についての相談は例年と比較して減少傾向にある等の変化がみられることから、今後はサービスの内容やサービス提供の在り方について更なる検討が必要となってくると思われる。

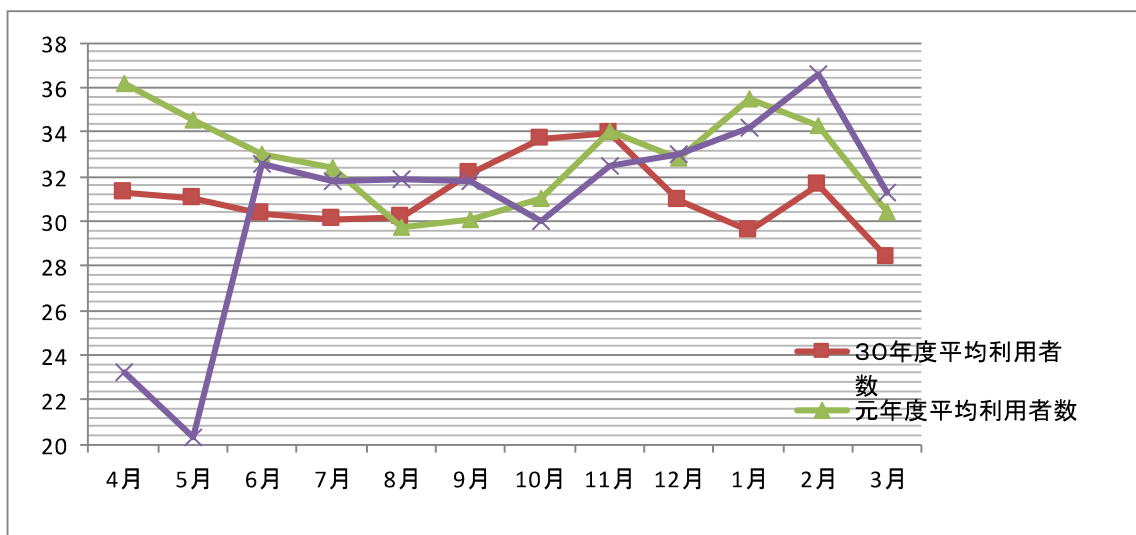
【児童発達支援事業】

- 年度当初は定員数 30 名に対して例年より少ない 57 名の契約で、待機無しでのスタートとなった。また、国の緊急事態宣言に伴い、療育サービス全体の縮小を行ったことにより利用率は減少しているものの、本年度の定員稼働率は平均 103%で減算を受けることなく運営が行えた。しかしながら、利用対象が幼児期の子どもであることから、体調不良等での欠席や併行利用先である保育園、幼稚園の行事の影響を受けやすい状況にある。
(図 1,2)
- 今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、療育や行事等については縮小・中止せざるを得ない状況となったが、可能な限りの予防措置を講じ、療育メニューを工夫しながら、利用児童や保護者の皆様に安心して利用していただけるように努めた。
- 契約児童の大半は保育園・幼稚園との併行利用ではあるが、契約児童一人一人の発達状況を把握し、個別支援計画作成や評価、他機関との連携や就学支援など、職員の業務量や事務量は増えている。(図 3)
- 今年度より、保護者支援のための日中一時支援事業（療育終了後～18 時）を新たに開始した。早朝の延長保育（8 時から 8 時半）と併せて実施し、センターのみ利用されている保護者が安心して就労できる環境を整えた。併せて、日中一時支援事業に対応する専任職員を配置することで、児童発達支援業務と分離し、会議や業務遂行、事務時間の確保にも努めた。

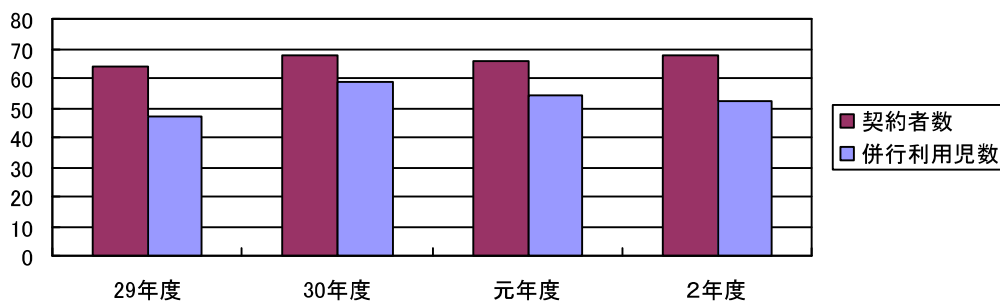
(図1)



(図2)



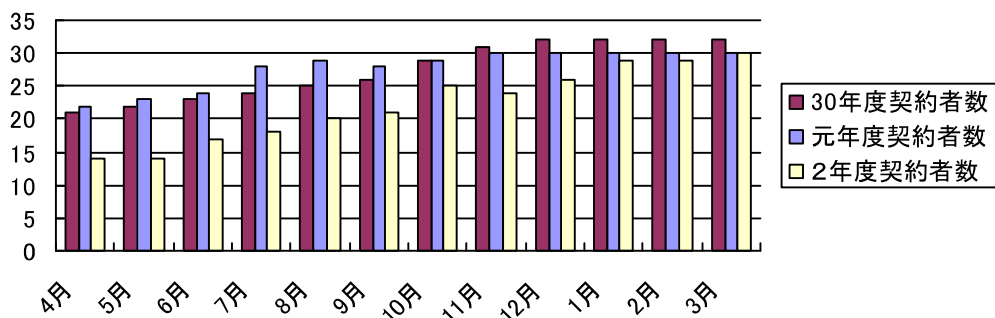
(図3)



【保育所等訪問支援事業】

- 年度当初は、契約数が例年と比較して減少傾向ではあったが、5歳児相談会後から増加がみられ例年並みの契約数・稼働率となった。(図4)
- 国の緊急事態宣言によって、保育園等の訪問を中止したため稼働率が下がっている期間はあるものの、その後は例年並みの契約数及び訪問件数となった。
- 知識や経験のある保育士・児童指導員を配置して訪問療育を行うことで支援の質が高まってきている。求められる支援の内容が広がってきているため、今後も支援者としての力量と支援の充実は、センター職員全体を通じて引き続き課題である。

(図4)



【委託事業】

- 山口県発達障害児地域支援体制強化事業
 - ① 11月、12月（zoom研修）に発達障害児に関わる方を対象に、研修会を実施した。
 - ② 9月にペアレントメンター養成者研修を実施した。
 - ③ ペアレントメンターグループ相談会を3回実施した。内1回は東部地区を対象として田万川保健センターで開催した。
- 山口県在宅障害児療育支援事業
 - ① 在宅支援外来療育等指導事業・・・221件実施
 - ② 施設支援一般指導事業・・・56件
- 日中一時支援事業
 - 実利用児童数・・・8名
 - 延べ利用件数・・・901件
- 阿武町母子保健事業
 - ① 幼児検診・・・4回
 - ② 子育て教室・・・1回

- ③ 発達支援教室・・・21回
- ④ 保育所訪問支援事業・・・9回

【地域支援・地域貢献】

- 児童発達支援の研修会開催
- 玩具、図書等の貸し出し
- 萩地区療育相談会・萩市及び阿武町5歳児相談会・発達クリニック等への職員派遣
- おもちゃのおうち地域開放（毎週火曜日）
 - *子育て相談、手作りおもちゃ、親子遊びの会を実施。
 - *読み聞かせのボランティアを派遣してもらい読み聞かせを実施。

【人材育成・定着】

- 職員の効率的な働きと質の向上を目指し、休憩の取り方や超過勤務についての話し合いを持ち職員への意識付けをした。
- 療育の担当制やクラスを解体したグループ療育を実施し、職員が療育を実施しながら、相互に質の向上が図れるようにした。経験が少ない職員が多く、それぞれが意見を出し合い、考えていける良い機会となった。
- 事業所内研修を定期的で開催し、職員の質の向上に努めた。

放課後等デイサービス「のびっこくらぶ」・「えーる」

今年度も、発達年齢に応じた支援の充実に重点をおき、それぞれの事業所で、子どもたちが楽しくのびのびと過ごせるように、安全面にも配慮しながら、療育支援・余暇支援に取り組んだ。また、子どもたち一人一人の特性を理解し、様々な経験の機会を提供した。

【療育支援・余暇支援】

- ◆障がい特性に応じた個別支援、年齢に応じた療育や交友関係構築の支援を行った。

「のびっこくらぶ」

- 子どもたちが意欲的に活動に取り組むことができるように環境を整え、視覚支援を行うことなどに配慮した。課題等にも落ち着いて取り組むことができるようになった。
- からふる内の教具や遊具を有効的に活用して療育を提供した。

「えーる」

- 個別のスケジュールボードを用い自閉傾向や発達障害を有する利用者に視覚支援を推し進めた。結果マスク着用率の増加、情緒の安定、スケジュール管理による多動の抑制に繋がった。
 - 卒業後を見据え、お仕事活動など社会性を育む個別支援計画を作成し目的をも取り組める内容にした。
 - パン教室や合唱の外部講師の依頼を例年行っているが、今年度はコロナの関係で実施が合唱1回のみであった。
- ◆コロナの影響で市外への行事活動計画を見直した。市内地域の社会資源の利用も手指消毒、バス車内の換気、密を避けることで実施をした。

【関係機関との連携】

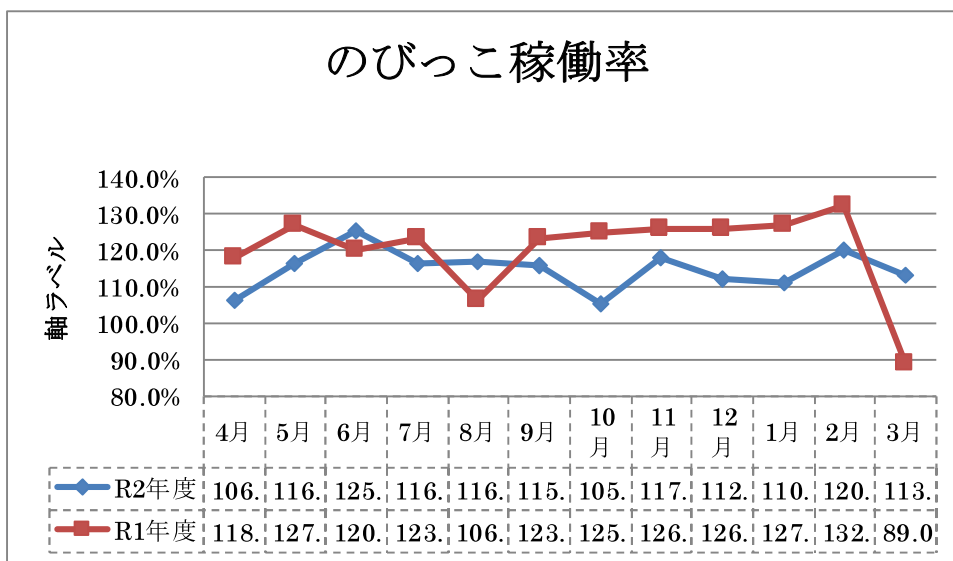
- ◆萩総合支援学校や市内の小・中学校への参観行事は明倫小学校1件のみであった。関係機関との情報交換会は随時行った。
- ◆他事業所や相談支援事業所と連携を図り子どもたちに必要なサービスが提供できるように努めた。

【自己研鑽】

- ◆市外への研修は実施せず、オンラインでの研修会に参加し自己研鑽に努めた。
- ◆萩市長門市の放課後等デイサービス事業所（きらり、ドリームキッズ）と適時情報交換を行った。

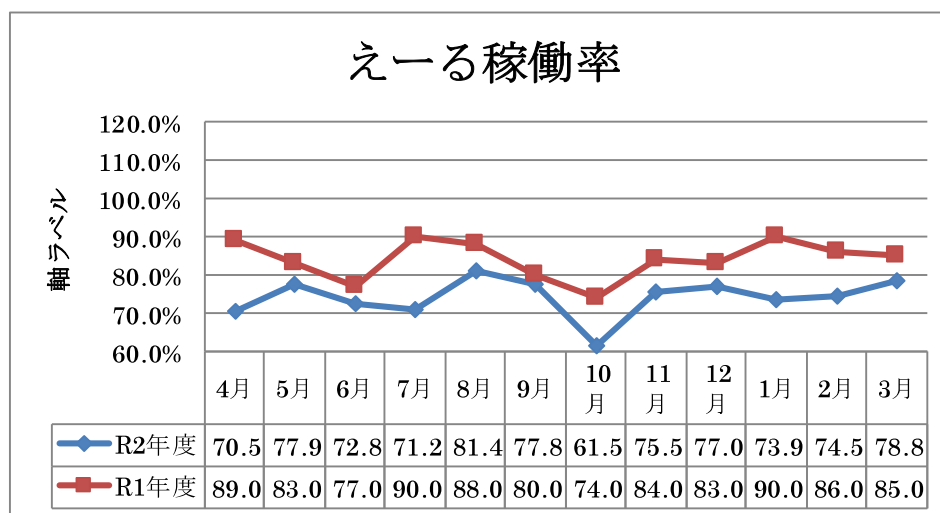
★のびっこくらぶ 定員：10名/日

- *登録者 42名(H31.3)→44名(H31.4)→48名(R1.10)→49名(R2.4)→50名(R3.3)
- *新規契約者が増加傾向にあります。毎月利用調整をせざるを得ない状況で各々の利用希望に添うことが難しい。
- *稼働率は令和2年度月平均115%で令和元年度より-0.5%。新型コロナウイルス感染症による影響（軽い病状でも欠席する利用児の増加）もあり稼働率は減少した。
- *受け入れ学校数が1日最大8校で、お迎え時は複数学校を1便で行くなど工夫を要する。また感染症の影響で、「のびっこ」「えーる」の合同便を廃止し、事業所単独での運行とした。



★えーる 定員：10名/日

- *登録者 23名(H31.4) →27名(R1.10) →22名(R2.4)→22名(R3.3)
- *平均利用率は H30 年度 76.5% →R1 年度 84%→R2 年度 75%と減少した。
- *R2 年度の減少は、主に萩総卒業生によるもの。えーるの欠席者は殆どいなかった。



なないろ（障害福祉サービス事業所）

重点事業方針についての取組結果（総括）

新型コロナウイルスの流行により、事業所の併用の休止等を行ったため、利用の契約の解除につながった方が、全体を通して3名おられた。また、様々な状況が重なり、契約を解除せざる得ない状況の方を含めて、5名の契約解除となった。事業収入に関しては、大きな変動はなかったものの、就労型の利用者の工賃につながる収益は、催し物の中止や施設利用の休止等の影響で平均工賃は下がってしまう状況となった。

また、新しい生活様式を取り入れ、福祉事業を継続できるための支援として、マスクの着用支援や食堂でのソーシャルディスタンスの取り組み支援を行った。食堂は、事業毎にある程度の時間を区切ったり、対面での食事を避けるために椅子の数を減らしたりなどしている。支援を行いながら継続しているが、開始直後よりも利用者の意識が向上している状況となっている。

就労継続支援A型事業

新型コロナウイルスの流行と緊急事態宣言の中、喫茶店の営業を休止せざる得ない状況となり、その月の収益はかなりの減少となった。A型利用者の雇用は継続し、チラシ作りや喫茶店のレイアウトの変更など、日常とは違う仕事内容も多かったが、継続したことで、喫茶店の営業再開の際にも安定した働きにつながった。喫茶店を再開してからは、新しい生活様式を取り入れた店内の配置やメニューのバリエーションを増やすことで、順調に売り上げを回復できた。

また、配食弁当は回収容器を基本として行ってきたが、パック容器との選択ができるように変更し、外部業者を入れる不安のある企業にも継続してご利用していただける工夫を行い、コストは若干かかるものの、安定した収入につながった。

12月に1名の一般就労への移行を行い、現在の継続支援を行っている。



11

季節限定メニューを豊富に
取入れて集客力のUPを図った。

就労継続支援 B 型事業

新型コロナウイルスの影響を一番受けたのは、就労継続支援 B 型である。委託事業に関しては、施設営業の休止で清掃がなくなるなどの若干の影響にとどまったが、生産販売を行う菓子部門においては、様々な催し物の休止により、販売を行うことができずに工賃に大きく影響をしており、その状況は現在も続いている。

その中でできることとして、ギフト販売を促進したり、インターネットでの販売を開始したりなど、様々な工夫を行っている。その中で少しずつ「萩米香」というブランドを広めることができ、他県の方の購入も入ってきている。また、萩の企業とつながりを持ってたことで、様々な販売の機会に繋がってきている。

工賃の減少は、そのまま次年度の基本単価に影響してしまう福祉事業であり、如何に工賃を上げていくかを考えていく必要がある。令和 3 年度は、施設外就労の加算がなくなり、減収が予測される状況である。今後は、就労を望む利用者の満足度を向上させ、更にもどのように工賃の向上を目指していくのかを考える必要がある。

また、利用者は、途中からの新規利用も多く、定員 22 名に対して 48 名の契約状況である。現在は新規利用者が受け入れられない状況であり、問い合わせも多くいただいているが、断っている状況である。

就労移行支援事業

就労移行の利用者としては、萩総合支援学校の卒業見込みの方 2 名の暫定支給利用者と 3 名の利用者の併せて 5 名の利用があった。暫定も含めて、全員が就労継続支援 B 型事業への移行となった。新型コロナウイルスの流行により、元々の障害者雇用の枠も狭くなっている状況であるが、企業の少ない地域での一般就労への移行は、かなり難しい状況となっている。

また、新規利用者がいないことで、事業運営も厳しい状況になっている。今後の事業の運営については、検討していく方向性である。

就労定着支援事業

就労移行の利用者、または利用の状況を大きく受ける事業のため、今年度の利用はなしとなっている。就労移行事業と合わせて、今後の事業の運営については、検討していく方向性である。

生活介護事業

定員を増やしたことで、1 名の受け入れが可能となった。新型コロナウイルスの流行に伴い、地域生活が安心して継続できるための支援として、「新しい生活様式」を意識した支援を行う必要があった。マスクの着用を一人一人に合わせて支援を行い、マスクだけでなく、フェイスシールド等も含めて、外出時には着用して出かけることができるようになっている。また、施設内でソーシャルディスタンスを視覚的に取り入れるなどの支援を継続して行い、利用者の意識の向上も目指した。

日中一時支援事業

なないろの利用者が4名とさんみ苑の利用者が1名、継続的に利用されている。併せて、なないろの利用されている方が、緊急的にご利用される場合もあった。現在の利用定員は、継続利用3名と緊急対応1名となっており、超えて対応している状況である。また、利用されている方が1対1での対応が必要な方が多く、職員が3名で対応している状況であり、これ以上の利用は、他の事業や送迎との兼ね合い等も含めて、受けられない状況となっている。

萩市障害者支援施設さんみ苑

「安心と信頼のつながりを」の理念のもと、さんみ苑に関わっているすべての人が笑顔で楽しく幸せを感じることができるような支援を目指し、以下の取り組みを実践しました。

1.障害特性に応じたケアの充実(医療的ケアの体制づくり)

看護スタッフを中心に医療的ケア(経管栄養)が必要となった通所利用者の支援を家族・医療・訪問・相談・共生型生活介護それぞれの事業所と連携し、実施しました。

令和2年度予定していた介護職員による喀痰吸引実施者研修はコロナウイルス感染予防の措置により、派遣を取りやめました。(次年度は実施予定)

2.口腔ケアの充実(歯科通院の実施)

8月5日、18日、28日の3日間で、協力医(村上康子医師)が入所利用者向けの歯科検診を実施しました。初回ということで、嫌がられる方もいましたが、その後の通院は上手くつなぐことができました。

第2回の歯科検診、通所利用者も含めた口腔ケア(全2回予定)は、コロナウイルス感染予防の措置により中止しました。(次年度は実施予定)

3.職員研修に関するシステムの活用

前年度から運用を開始したサポーターズカレッジの動画研修を組み合わせ、月1回内部研修会を実施しました。研修後は、ラインワークスによりアンケート調査も実施しました。

職員の経験年数による階層をグループ化し、各段階で必要な課題について動画を用いて研修する仕組みを試行しました。

令和2年度は、5名のスタッフが介護福祉士の国家試験に合格し、専門職としての歩みを開始しました。

専門資格の取得については、平成31年度にも2名が介護福祉士、平成30年度に2名が社会福祉士試験に合格しており、スタッフの間に専門性の向上意識が根付いてきています。

4.各事業について

施設入所支援事業(定員30名)

女性棟の浴室を改修し、個浴(1人浴槽)と中浴(2,3人浴槽)を設置しました。また、あえてリフトは設置せずに、入浴台等の介助具や介護技術による入浴介助の方法を実践し、職員の介護知識や介護技術を向上させる取り組みを実施しました。

相談機関と連携し、高齢入所者の高齢者デイサービスの利用を調整し、新たに1人の方の利用を開始しました。

コロナウイルスの感染者発生に備えてマニュアルの作成、及び避難場所の設置を行いました(男性棟)。

医療受診が困難な入所利用者について嘱託医との連携の中で、県の中核的病院への検査・受診を実施しました。

生活介護事業(定員50名)

コロナウイルス感染症の影響で利用者さんが楽しみにされていた行事の多くが中止となり、代替え行事を実施し、大変好評でした。(さんみ苑まつり、さんみ苑芸能祭、さんみ苑運動会)
次年度も、中止になった行事については代替え行事を実施する予定です。

短期入所事業(定員6名)・日中一時支援事業(定員2名)

短期入所、日中一時支援事業ともに地域ニーズの解消に向けた取り組みを実施しました。

令和2年度 事業別利用実績

施設入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度比	備考
4月	30	836	30	27.9	100.0%	
5月	30	888	31	28.6	107%	
6月	30	852	30	28.4	100%	
7月	30	876	31	28.3	99%	
8月	30	864	31	27.9	100%	
9月	30	850	30	28.3	100%	
10月	30	882	31	28.5	100%	
11月	30	851	30	28.4	103%	
12月	30	871	31	28.1	100%	
1月	30	864	31	27.9	103%	
2月	30	796	29	27.4	100%	
3月	30	888	31	28.6	105%	
集計		10,318	366	28.2	101%	0.94

生活介護事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度比	備考
4月	54	892	22	40.5	100.3%	
5月	54	890	23	38.7	102%	* 並行利用の中止
6月	54	882	22	40.1	105%	
7月	53	916	23	39.8	97%	
8月	53	859	23	37.3	100%	
9月	53	851	22	38.7	98%	
10月	53	905	23	39.3	103%	
11月	53	834	22	37.9	100%	
12月	53	866	23	37.7	99%	
1月	53	851	23	37.0	97%	
2月	53	758	21	36.1	96%	
3月	54	905	23	39.3	105%	
集計		10,409	270	38.6	100%	0.77

短期入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度比	備考
4月	3	11	30	0.4	15.3%	* 緊急以外の受け入れ中止
5月	1	9	31	0.3	17%	* 緊急以外の受け入れ中止
6月	5	19	30	0.6	42%	
7月	8	47	31	1.5	142%	* 緊急受け入れ実施
8月	7	34	31	1.1	94%	
9月	8	28	30	0.9	58%	
10月	7	24	31	0.8	59%	
11月	8	51	30	1.7	134%	* 緊急受け入れ実施
12月	6	36	31	1.2	57%	* 緊急受け入れ実施
1月	6	22	31	0.7	33%	
2月	6	17	29	0.6	27%	
3月	4	20	31	0.6	59%	
集計		318	366	0.9	54%	

◇利用実績について◇

施設入所支援事業については、4月、5月、6月の3ヶ月間は1名欠員した常態で推移、その後、7月に男性の新規利用者の受入れを行い、30名の利用となった。令和元年1月末に女性1名が退所され、2月、3月と1名欠員の状況となった。前年との比較では、97%と3%の利用減となった。

生活介護事業については、4月、7月、2月に新規利用者の受入れを行い、前年度比較は、102%と若干の利用増となった。利用者の内訳で入所者と通所者を見ると、平均利用者数の38.5名に対して、27名の入所利用者、11.5名の通所利用者となっている。定員数との比較では、定員50名に対して、実数が38.5名となる為、利用率は、77%、今後、11.5名の受入れが可能となる。

短期入所支援事業については、平均利用者数が1.6名と毎日、2名弱の利用者の受入れを実施し、入所の欠員を実質的に満たす状況となった。

平成31年度 事業別利用実績

施設入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度比	備考
4月	29	836	30	27.9	96.3%	* 入院あり
5月	29	833	31	26.9	96%	* 入院あり
6月	29	852	30	28.4	104%	
7月	30	889	31	28.7	98%	* 新規入所者あり
8月	30	862	31	27.8	96%	
9月	30	854	30	28.5	99%	
10月	30	880	31	28.4	100%	* 入院あり
11月	30	828	30	27.6	94%	* 入院あり
12月	30	867	31	28.0	97%	
1月	30	840	31	27.1	96%	* 退所者あり
2月	29	800	29	27.6	98%	
3月	29	848	31	27.4	96%	
集計		10,189	366	27.8	97%	0.93

生活介護事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	前年度比	備考
4月	53	889	22	40.4	101.6%	* 新規利用者あり
5月	53	873	23	38.0	99%	
6月	53	842	22	38.3	100%	
7月	54	944	23	41.0	102%	* 新規利用者あり
8月	54	859	23	37.3	96%	
9月	54	866	22	39.4	106%	
10月	54	879	23	38.2	100%	
11月	54	833	22	37.9	97%	
12月	54	876	23	38.1	108%	
1月	54	875	23	38.0	108%	* 退所者あり
2月	54	790	21	37.6	104%	* 新規利用者あり
3月	54	859	23	37.3	98%	* コロナウィルス影響あり
集計		10,385	270	38.5	102%	0.77

短期入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数		備考
4月	9	72	30	2.4		* 緊急受入れあり
5月	11	52	31	1.7		
6月	11	45	30	1.5		
7月	10	33	31	1.1		
8月	8	36	31	1.2		
9月	12	48	30	1.6		* 緊急受入れあり
10月	11	41	31	1.3		
11月	10	38	30	1.3		
12月	9	63	31	2.0		* 緊急受入れあり
1月	10	66	31	2.1		* 緊急受入れあり
2月	10	62	29	2.1		* 緊急受入れあり
3月	8	34	31	1.1		
集計		590	366	1.6		

◇利用実績について◇

施設入所支援事業については、4月、5月、6月の3ヶ月間は1名欠員した常態で推移、その後、7月に男性の新規利用者の受入れを行い、30名の利用となった。令和元年1月末に女性1名が退所され、2月、3月と1名欠員の状況となった。前年との比較では、97%と3%の利用減となった。

生活介護事業については、4月、7月、2月に新規利用者の受入れを行い、前年度比較は、102%と若干の利用増となった。利用者の内訳で入所者と通所者を見ると、平均利用者数の38.5名に対して、27名の入所利用者、11.5名の通所利用者となっている。定員数との比較では、定員50名に対して、実数が38.5名となる為、利用率は、77%、今後、11.5名の受入れが可能となる。

短期入所支援事業については、平均利用者数が1.6名と毎日、2名弱の利用者の受入れを実施し、入所の欠員を実質的に満たす状況となった。

さんみ苑グループホーム 共同生活援助

理念: 地域の中で自分らしく暮らす

○グループホームでの生活を送る中で、相談支援を中心にご本人が地域の中で暮らし続けたいと思う気持ちに寄り添い、安心して生活ができる環境づくりを行ってまいりました。

ご本人の状態把握や生活上の課題について、関係機関等との連携、情報の共有を図り、生活リズムの維持ができるようサービスの提供を行いました。

【重点事業方針】

・「食事作り」:土、日曜日の昼食作りを通して、役割分担の中、みんなで協力して作ることを行い、食事ができたことへの達成感を味わっていただきました。またみんなと楽しく食事ができる場面を作ることで、仲間意識の構築を図りました。

・「金銭管理」:買い物支援時に自分のお財布からお金を支払う経験を重ねてもらい、自立に向けた支援を行いました。

・「健康管理」:通院支援を行い、健康状態の把握を行いました。服薬管理が必要な方への支援も行って体調不良の軽減やストレス軽減を図りました。

・「地域交流」:防災訓練で地元の方と協力して取り組む予定にしておりましたが、今年度は達成しておりません。

・「安全対策」:はいつびわ・ほたるは「土砂災害危険特別警戒区域」であることを職員同士で再確認し、避難訓練の実施、防災マニュアルの見直しを行いました。

		R2年度	R2年度	R2年度	障害平均区分		
		開所日数(日)	のべ人数(人)	利用率	障害区分	女性	男性
定員12名 はいつびわ 6人 はいつほたる6人	4月	30	326	99%	非該当		
	5月	31	341	100%	区分2	2	1
	6月	30	326	99%	区分3	1	1
	7月	31	341	100%	区分4	2	4
	8月	31	331	97%	平均区分	3	3.5
	9月	30	315	95%			
	10月	31	332	97%			
	11月	30	322	98%			
	12月	31	327	96%			
	1月	31	306	90%			
	2月	28	274	89%			
	3月	31	333	98%			
	計		182	1894	95%		
平均利用者数							
平均障害程度区分							

通院支援状況一覧

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
延通院支援回数	9	11	11	9	11	12	63
利用者数	11	12	14	12	13	14	
入院者数	0	0	0	0	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延通院支援回数	11	8	13	9	8	13	292
利用者数	18	9	15	11	10	15	
入院者数	0	0	0	1	1	1	

萩市デイサービスセンターさんみ苑

《 総括 》

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、利用者・家族の方には、ご理解とご協力を継続的にお願いする1年となった。検温・定期的な換気・消毒等、感染対策に力を入れ、その他の感染症の蔓延も見られなかった。事業所への慰問や外出を制限する中で、室内にいても季節を楽しむことができるよう、環境整備や活動への工夫・配慮に取り組んだ。

令和2年度は、利用者実人数の低下と平均介護度の低下により減収となっている。引き続き、高齢から障がいまで、幅広い層の利用者受け入れと、利用率の増加、加算の算定に積極的に取り組み、増収を目指す。

《 重点方針における取り組みについて 》

1. 介護保険事業

コロナ禍でも季節を感じながら、楽しみや生きがいを持てるように、在宅での生活が継続できるように、環境整備や個別の対応を行った。利用者数は減少したが、認知症生活自立度が中重度者の割合は増えている。中重度の認知症患者を積極的に受け入れたことにより、令和3年度は、認知症加算の算定が再度可能となった。認知症により、記憶障害や被害妄想、うつ症状による不定愁訴の訴え等のある方が増えている。今後、より高度なアセスメント能力や認知症対応の技術が必要となる。

2. 共生型生活介護事業

共生型生活介護事業も2年目となり、利用者は、現在2名。本人・家族からも「楽しい。土曜日の受け入れは助かる。」等、喜びの声をいただいている。萩市における法人の役割の一つとして、高齢者・障がい者の共生を目指した幅広いサービスを提供できる事業所を目指す。

3. 萩市介護予防教室

より自立度の高い高齢者の方には、計画的に個人の状況にあった機能訓練の提供を行った。地域活動への参加を推進する取り組みも、在宅介護支援センターと連携し行っている。

4. 感染予防の強化

送迎時からの検温と体調確認、手洗い、アルコールによる手指と器具の消毒、定期的な換気、マスク着用の徹底を行い、感染予防に努めた。口腔内の衛生管理による肺炎予防を継続的に行った。利用者の健康管理にも十分配慮し、早期発見、早期対応、悪化防止に取り組んだ。

5. 委員会活動の強化

日々、業務を振り返り、各委員会を通じてPDCAサイクルによる業務改善を行っている。各委員会が小人数で活動することにより、職員一人ひとりの自発性、積極性、発言力、観察力・モチベーション等の向上が見られ、チーム全体としての力も向上している。今後、より計画性のある活動を目指す。

6. 人材育成

令和2年度は、介護職員に介護福祉士資格の取得を目指すよう推進した。資格取得を目指すことにより、職員個人だけでなく、チーム全体の意識の変化、業務改善にもつながっていた。研修については、オンライン研修を活用して、内部研修へ展開、学びをどう現場に生かすか検討し、チーム全体に伝える。発信力と発言力の向上を目指した。キャリア段位制度の活用が課題となっている。

※収入・利用実績前年度比については、別紙表1.2参照

表1:対前年度収入比較 (概算利用者負担額含)

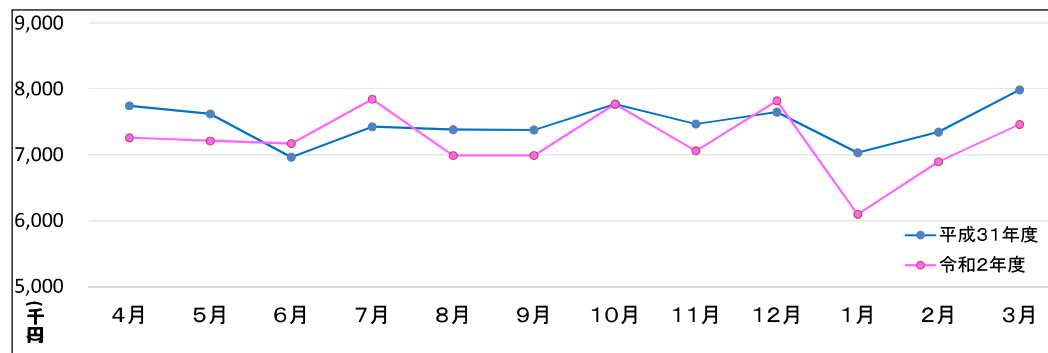
(単位:千円) ※千円以下切捨て

【平成31年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保険請求額	6,876	6,788	6,193	6,590	6,544	6,533	6,897	6,634	6,791	6,217	6,476	7,049	79,588
一部負担/公費	786	771	711	763	768	778	815	776	802	734	774	840	9,318
介護保険総額	7,662	7,559	6,904	7,353	7,312	7,311	7,712	7,410	7,593	6,951	7,250	7,889	88,906
萩市介護予防教室	60	45	45	54	51	48	42	42	42	48	54	51	582
利用者負担額	22	19	16	20	19	18	16	16	16	19	20	19	220
介護予防事業総額	82	64	61	74	70	66	58	58	58	67	74	70	802
共生型生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	22	29	66

【令和2年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保険請求額	6,418	6,412	6,340	6,909	6,139	6,148	6,832	6,184	6,854	5,352	6,019	6,559	76,166
一部負担/公費	753	733	736	815	726	725	802	740	805	607	715	765	8,922
介護保険総額	7,171	7,145	7,076	7,724	6,865	6,873	7,634	6,924	7,659	5,959	6,734	7,324	85,088
萩市介護予防教室	48	45	54	54	45	39	42	48	54	54	60	51	594
利用者負担額	18	20	20	23	17	14	17	17	20	20	22	18	226
介護予防事業総額	66	65	74	77	62	53	59	65	74	74	82	69	820
共生型生活介護	21	0	21	45	63	63	79	71	87	63	79	71	213

【総額】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成31年度	7,744	7,623	6,965	7,427	7,382	7,377	7,770	7,468	7,651	7,033	7,346	7,988	89,774
令和2年度	7,258	7,210	7,171	7,846	6,990	6,989	7,772	7,060	7,820	6,096	6,895	7,464	86,571

61



【分析と課題】

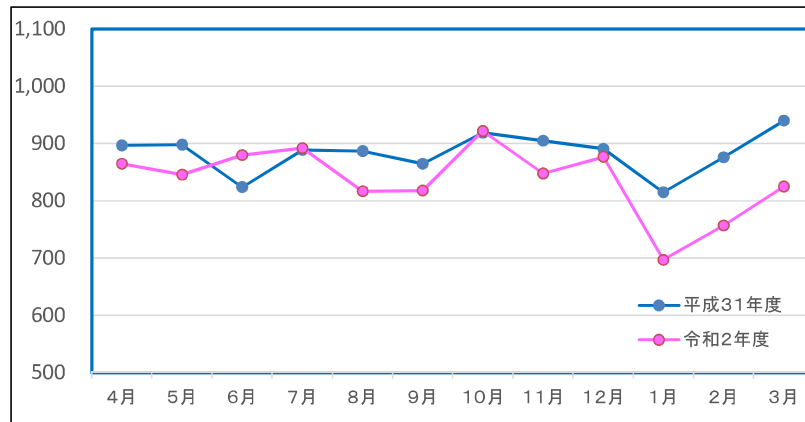
※1月の請求が低下しているのは、については年始の休苑(1日～3日)により、稼働日が23日だったものによる。

※年度始めより、比較的安定していたものの、秋から冬にかけて、体調不良や転倒等による入院が増加し、利用者の実人数が減ったことが原因で減収となった。入院の長期化や精神状態の悪化、家族の介護力の低下により、在宅に戻れないケースも多くみられた。ここ最近では、要支援者が要介護の認定を受け、利用回数が増えるパターンが多い。共生型生活介護の利用者は2名。今後も幅広い受け入れと加算の算定により増収を目指す。

表2:対前年度月別、介護度別利用回数、稼働率比 (延べ)

(単位:人)

【平成31年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防教室(萩市)	20	15	15	18	17	16	14	14	14	17	18	17	195
共生型生活介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	4	9
介護保険	877	883	809	871	870	849	905	891	877	798	858	923	10,411
事業対象	22	26	16	23	24	23	26	23	16	19	20	18	256
要支援1	40	45	46	45	43	38	38	35	41	41	47	45	504
要支援2	108	110	112	121	115	102	105	97	98	90	96	98	1,252
要介護1	322	312	295	311	345	352	399	409	415	373	415	475	4,423
要介護2	251	237	204	234	225	210	206	202	165	150	158	153	2,395
要介護3	91	96	85	80	63	69	77	79	95	83	67	77	962
要介護4	28	45	41	47	43	46	48	45	47	42	55	57	544
要介護5	15	12	10	10	12	9	6	1	0	0	0	0	75
合計	897	898	824	889	887	865	919	905	891	815	876	940	10,606
稼働率(定員50)	69%	67%	66%	66%	66%	69%	68%	70%	69%	68%	70%	72%	68%
介護保険事業の稼働率	67%	65%	65%	65%	64%	68%	67%	69%	67%	67%	69%	71%	67%
【令和2年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防教室(萩市)	16	15	18	18	15	13	14	16	18	18	20	16	197
共生型生活介護	3	3	0	4	8	8	10	9	11	8	10	9	83
介護保険	849	831	862	874	802	805	908	832	859	679	737	809	9,847
事業対象	12	12	13	14	14	15	18	15	18	14	9	9	163
要支援1	43	43	37	33	27	33	41	33	38	29	31	33	421
要支援2	89	87	87	106	83	83	101	88	88	63	81	87	1,043
要介護1	416	405	435	436	421	413	455	409	432	318	327	343	4,810
要介護2	166	169	157	154	140	154	169	159	151	126	148	171	1,864
要介護3	80	84	103	99	85	75	103	92	90	100	116	114	1,141
要介護4	43	31	30	32	32	32	21	19	18	14	16	27	315
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	17	24	15	9	25	90
合計	865	846	880	892	817	818	922	848	877	697	757	825	10,044
稼働率(定員50)	67%	65%	68%	66%	63%	65%	68%	68%	65%	61%	63%	61%	65%
介護保険事業の稼働率	65%	64%	66%	65%	62%	62%	70%	67%	64%	59%	61%	60%	64%
【利用延べ人数】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成31年度	897	898	824	889	887	865	919	905	891	815	876	940	10,606
(稼働日数)	26	27	25	27	27	25	27	26	26	24	25	26	311
令和2年度	865	846	880	892	817	818	922	848	877	697	757	825	10,044
(稼働日数)	26	26	26	27	26	25	27	25	27	23	24	27	309



◆平均介護度

平成31年度	1.7
令和2年度	1.5

◆中重度ケア体制加算（≦30%）延べ利用者数

平成31年度	18.8%	※要介護者のうちの要介護
令和2年度	18.3%	3.4. 5の利用者の割合

◆認知症加算（≦20%）延べ利用者数

平成31年度	18.4%	※要介護者のうち日常生活
令和2年度	21.8%	自立度Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの利用者

【分析と課題】

利用者数は毎年減少傾向にある。実人数は減っているものの、一人の利用日は増えている。長期利用者も多い。平均介護度は1.5と年々軽くなってきている。要支援者、中重度者は減少傾向にあり、要介護1の利用者が増加している。これは、日常生活動作は比較的自立しているものの、認知症による記憶障害・被害妄想等により、生活に支援・配慮が必要な状態の人が増えているのが現状。萩市の介護認定が以前と比べ、軽くなることも要因の一つ。要介護1は、自立度が高い反面、認知症による不安が強く、職員による個別のかかわりと精神的なフォローが必要となっている。入浴サービス利用者は全体の77%。在宅での生活を送る上での、入浴の必要性は高い。自宅の入浴環境は整っており、身体機能も問題ないが、認知症等により一人で入浴できてないケースや異性が介護者の場合、入浴に対する負担が大きく、家族より希望されるケースが多い。

認知症加算については、平成31年度実績が20パーセントを下回ったため、算定なし。令和2年度実績は21.8%、基準を上回ったため、令和3年度は加算の算定を行う。全体の利用者が減ったことと、介護度は軽いものの、日常生活自立度は中重度と判定されている利用者が増えたことによる。算定要件の認知症実践者研修修了者は現在2名。令和3年度1名研修受講予定としている。

中重度ケア体制加算については、昨年同様の状況。令和3年度も算定なし。

居宅介護支援事業所さんみ苑

《総括》

R2年度は収益の大幅な増加はなかった。予防給付により、若干の増加がある程度である。平成29年5月から算定している特定事業所加算(要件:主任介護支援専門員を含む常勤3名の介護支援専門員配置)の継続により、収益を補填している。

新規担当件数は、減少傾向にある。利用者全体の減少も、認知症状の悪化により、在宅サービスで支えきれず、精神科病院への入院や、特別養護老人ホームへの入所が要介護3程度でも可能になったことが原因と考えられる。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、今まで市外県外の家族支援により、独居及び高齢夫婦世帯で生活を維持できていた方が、生活自体を脅かされる状況となった。

家族支援の補填は、介護保険サービスで補いきれず、その支援の代行を介護支援専門員が担わなければいけないことも生じた。介護支援専門員の月一回の訪問さえも、困難な状況になったこともあり、自宅訪問がないことで、アセスメント、本人や環境を見た気づき、予後予測も困難な状況であった。電話等での情報取得に取り組んだ。

困難ケースでは、事業所内検討を繰り返し、関係機関・医療機関との連携を密にして、可能な限り住み慣れた環境で生活することを目標に、業務に努めた。

《重点方針における取り組みについて》

1. 健康事業所を目指す

3年間は、職員の入れ替わりはなし。本人・家族との調整、コロナ感染症対策、365日24時間体制の整備による負担はあるものの、事業所・法人内での連携や事例検討、関係機関・医療機関の協力もあり、健全な対人援助ができた。

2. 専門職としての資質の向上

事業所内において、概ね週一回、ケースの情報を共有し、一人ひとりが抱える不安や疑問を減らすことを目的とした話し合いを行った。不安を軽減することで利用者にしっかり向き合い、対応できるように努めた。

コロナ禍において、介護支援専門員の更新要件研修もオンラインでの研修となった。萩市地域包括支援センター及び有志介護支援専門員主催の事例検討会にも積極的に参加し、スキルアップを目指した。

3. 担当エリアの拡充

萩市地域包括支援センターをはじめ、関係機関にも啓発を行った。

4. 医療・関係機関との連携の充実

関係者とのこれまで以上に情報交換を行い、異常の早期発見、対応に努めている。服薬管理、栄養管理など、体調を維持するための支援は、要介護認定結果が、一段階でも下がると負担上限額も下がり、介護保険で補いきれない自己負担額が大幅に増え、生活を圧迫することが多くみられた。少しでも住み慣れた土地や家で生活ができるよう検討しても、経済的な問題が起きると調整不能となる。国はインフォーマルな支援、共助のサービス住民主体のサービスを推奨しているが、個人情報の保持や、保障の観点から、実際の導入は難しく、課題が残る。

5. 障がい施策から高齢施策への移行支援

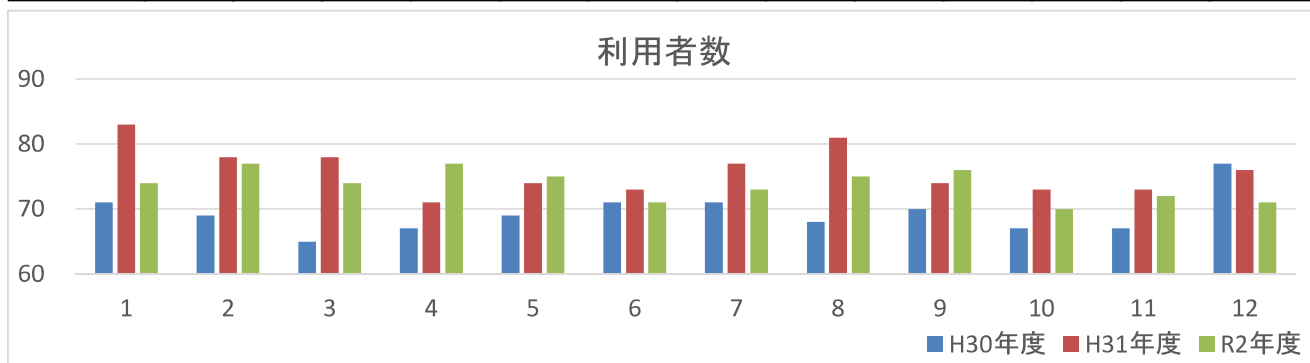
本人・家族の移行に対する不安が少しでも軽減するように、事業所のサービス管理責任者・相談支援専門員との連携が不可欠となる。自己負担金の問題もあり、介護保険制度の理解から始める必要がある。法人の役割としても、幅広くケースを受け、しっかり関わっていく方向で取り組みたい。今後、移行がスムーズにいくよう努力する。

表1：居宅介護支援事業所（令和2年度）

対過去3年度要介護利用者数比較

※要支援含まず

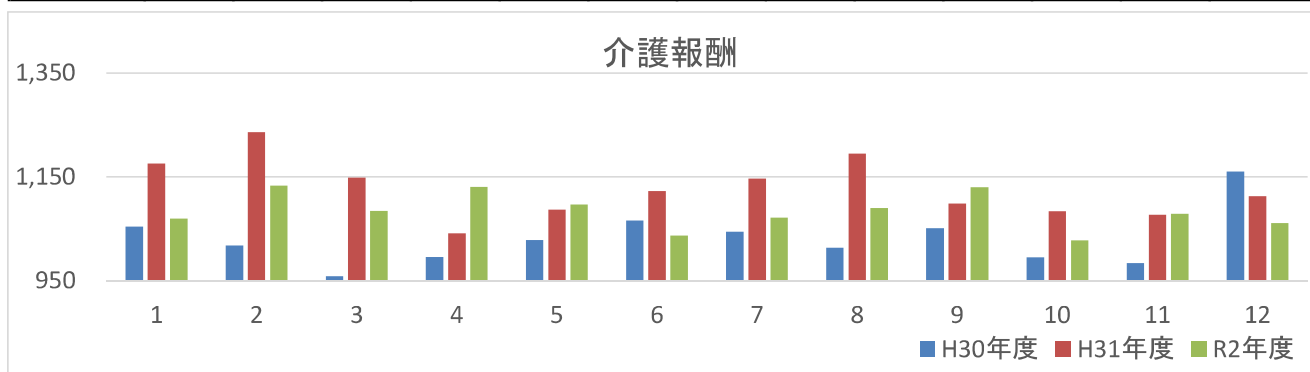
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30年度	71	69	65	67	69	71	71	68	70	67	67	77	832
H31年度	83	78	78	71	74	73	77	81	74	73	73	76	881
R2年度	74	77	74	77	75	71	73	75	76	70	72	71	885



対過去3年度介護報酬比較（単位：千円以下切り捨て）

※予防給付含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30年度	1,055	1,018	959	996	1,029	1,066	1,045	1,014	1,051	995	984	1,161	12,369
H31年度	1,176	1,236	1,149	1,042	1,087	1,123	1,147	1,195	1,099	1,084	1,077	1,113	13,528
R2年度	1,070	1,133	1,085	1,131	1,097	1,037	1,072	1,090	1,130	1,028	1,079	1,061	13,019



対過去3年度介護報酬比較（要支援：予防給付）／（単位：千円以下切り捨て）（件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30年度	18 (4)	15 (4)	49 (9)	48 (12)	49 (12)	60 (14)	61 (15)	68 (17)	58 (15)	58 (15)	54 (14)	54 (14)	537
H31年度	54 (14)	54 (14)	57 (14)	50 (13)	42 (11)	49 (12)	49 (12)	46 (12)	60 (14)	62 (16)	62 (16)	58 (15)	646
R2年度	62 (16)	68 (17)	65 (17)	58 (15)	62 (16)	62 (16)	58 (15)	58 (15)	61 (15)	62 (16)	62 (16)	62 (16)	743

過去3年度3月の介護度別人数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
H30年度	4	10	33	24	9	7	4
H31年度	4	11	44	15	8	7	2
R2年度	5	11	28	21	13	6	3

対過去3年度初回加算対象件数比較（要介護）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30年度	6	1	2	3	5	3	3	4	4	3	1	12	47
H31年度	4	0	2	1	3	2	6	3	0	1	4	3	29
R2年度	1	4	2	2	2	1	3	1	4	1	5	1	27

対過去3年度初回加算対象件数比較（要支援：予防給付）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30年度	1	0	5	2	1	2	1	2	0	0	0	0	14
H31年度	0	0	1	0	0	1	1	0	2	0	0	0	5
R2年度	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3

萩市在宅介護支援センターさんみ苑

《総括》

コロナ禍により、訪問が十分にできない時期もあったが、地域を把握・支援する役割を果たすため、在宅介護支援センター相談員は、相談対応・実態把握・調整に努めた。旧萩市内にある、他の在宅介護支援センターの中でも、訪問対応件数は標準的な数字が出ている。定期的な訪問と実態把握、地域からの相談がスムーズに上がるよう体制整備に努めた。困難ケース等の対応に苦慮した場合は、事業所内の居宅介護支援事業所・通所介護事業所と内部検討を重ね、萩市地域包括支援センターの助言を参考にし対応している。地域生活体制整備事業により、木間地区・山田地区に加え、三見地区の協議体が立ち上がったことにより地域支援を考える場に、相談員が参加する機会が増えた。今後も、萩市の方針に従い、他の13在宅介護支援センター、地域住民、関係機関と協働しながら、地域の把握・課題の解決に取り組む。

※訪問、対応実績の詳細は別紙:表1参照

表1：萩市在宅介護支援センターさんみ苑実績(R2年度)

相談実績累計

	相談形態別累計							その他 <small>調整回数</small>	夜間 <small>(再掲)</small>	台帳登録者数 <small>実数</small>
	電話	来所	訪問	FAX	会議	その他	計			
H31	626	8	617	12	18	332	1613	176	3	1
R2	647	5	486	29	13	272	1452	118	7	1

相談内容累計

	生活支援・予防事業											介護保険サービス		医療			認知						
	配食	外出支援	乾燥消毒	寝具類洗濯	ヘルプサービス	生活援助ホーム	訪問理美容	介護予防・特定	デイサービス	生活支援	シヨートステイ	緊急通報装置	家族介護者支援	その他福祉サービス	在宅サービス	施設サービス	その他	入院	退院	その他	本人	家族・親族	関係機関
H31	182	1	0	0	5	21	0	0	197	42	10	16	2	130	9	6	30	27	1	0	5		
実人数	36	1	0	0	3	10	0	0	72	23	4	9	2	37	7	3	15	14	1	0	4		
R2	206	1	0	1	4	12	0	0	259	44	9	127	6	62	6	9	46	55	9	0	3		
実人数	38	1	0	1	3	5	0	0	118	24	8	58	3	30	4	5	17	16	4	0	2		
	精神			不慮・親戚関係			虐待			成年後見			その他			合計							
	精神疾患	アルコール依存	閉じこもり	その他	家族・親戚関係間のトラブル	地域とのトラブル・苦情	その他	高齢者	障害者	一般	その他	市長申し立て	高齢者	障害者	その他		権利擁護	実態把握	その他				
H31	5	0	1	1	3	14	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	244	75	1036				
実人数	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	201	55	520				
R2	0	0	0	0	6	13	7	7	0	0	0	0	0	0	0	1	200	412	1505				
実人数	0	0	0	0	2	4	6	1	0	0	0	0	0	0	0	1	175	157	683				

対応実績累計

	相談	情報提供	連絡調整	家庭訪問	取次斡旋	ケース検討	申請代行	会議	研修	苦情	その他	合計	サービス適用実人員	サービス開始人数
H31	188	298	253	490	0	0	67	15	0	0	124	1439	420	67
R2	229	299	532	449	0	1	95	11	0	0	83	1711	321	95

実態把握加算の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H31	37	29	25	38	22	13	12	24	20	27	20	17	284
R2	7	5	32	24	19	27	23	23	19	23	9	16	227

求めている支援

	ケアマネジメント	社会資源の紹介	対人援助	制度説明確認	研修学習	個人の悩み事	同行訪問	その他	合計
H31	0	27	585	324	0	182	13	33	1164
R2	0	60	972	308	0	220	5	1	1566

地域活動への参加

	地域サロン	体力測定	地域生活体制整備事業	徘徊見守りネットワーク会議	地域行事
H31	36	4	19	0	2
R2	36	0	20	0	0

ひじわらグループホーム

理念：地域の中で自分らしく暮らす

○地域の中で暮らしながら、生活面での課題を一緒に共有し自立に向けた居住支援を展開していきました。ご本人たちが抱えている生きづらさに寄り添い、充実した毎日が暮らしていけるように相談支援を展開しながら関係機関との連絡、情報の共有を図り、生活によるストレスの軽減を図り生活リズムの崩れを小さくしていきました。

【重点事業方針】

- ・「食事作り」:朝食の提供、夕食の提供を世話人が中心となり食事提供を行いました。
- ・「金銭管理」:計画的に使えるよう、一緒に収支計算を行い、購入時の支援などご本人の負担にならないように行いました。また工賃等の把握を行い頑張った対価についてしっかり評価してあげることで働く意欲につながる支援しました。
- ・「健康管理」:通院支援を行い健康維持に努めました。体調不良時には医療に敏速につなげ、体調悪化への緩和を行いました。
- ・「地域交流」:今年度の取り組みは行っておりません。
- ・「安全対策」:職員指導や「防災訓練」に取り組みました。防災マニュアルの見直しを行いました。

	R2年度			障害区分	障害平均区分			
	開所日数(日)	のべ人数(人)	利用率		ひじわら	第2ひじわら	むたがはら	
定員12名 ひじわらほーむ 4人 第2ひじわらほーむ 6人 たがはらほーむ 4人	4月	30	390	93%	非該当		3	1
	5月	31	403	93%	区分2	2		3
	6月	30	397	95%	区分3	1	3	
	7月	31	403	93%	平均区分	2.3	1.5	1.5
	8月	31	375	86%				
	9月	30	360	86%				
	10月	31	365	84%				
	11月	30	360	86%				
	12月	31	404	93%				
	1月	31	387	89%				
	2月	28	367	94%				
	3月	31	416	96%				
	計		182	2299	90%			
	平均利用者数		11.4					
平均障害程度区分		1.6						

通院支援状況一覧

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
延通院支援回数	11	8	4	4	5	6	38
利用者数	11	9	5	5	6	7	
入院者数	0	0	0	0	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延通院支援回数	7	8	8	4	6	6	39
利用者数	8	8	11	5	6	7	
入院者数	0	0	0	0	0	0	

地域活動支援センター ふらっと

◎総括

2年度末の段階で、ふらっとの登録者は全体で50名。2年度の新規登録、更新された方は38名である。(うち、強化事業対象者が28名、基礎事業対象者が22名)

利用人数に関して4月は、1日に5.9人(強化事業のみ)だったが、3月は1日に1人(強化事業のみ)の利用状況だった。

利用者のふらっとを利用する目的として、一般就労や福祉サービスにつながる前段階の方や、日中の居場所として利用されている方がおられる。

活動場所として、ふらっとの部屋を主に使用し作業や活動を行い、またゆっくり過ごす目的や、クールダウン用の部屋として別室を設けた。ふらっとサークルは会議室を使用している。

利用人数の増加に関しては、関係機関と情報の共有をし、宣伝活動を行っている。また講師を招いて行うふらっとサークル等を行い、ふらっとの登録に繋げていけるよう活動内容を考え実施している。

2年度の11月より、開所時間の延長を行い、15時であったのを16時半までとした。就労後の方も利用して頂けるよう、各事業所等に宣伝活動も行った。

◎年間の利用人数

	利用人数(人)	開所日数(日)	平均人数(人) ※強化のみ
R2.4	130(基礎 12 強化 118)	20	5.9
R2.5	97(基礎 5 強化 92)	18	5.1
R2.6	145(基礎 28 強化 117)	22	5.3
R2.7	125(基礎 23 強化 102)	21	4.8
R2.8	114(基礎 24 強化 90)	20	4.5
R2.9	113(基礎 23 強化 90)	19	4.7
R2.10	150(基礎 24 強化 126)	22	4.7
R2.11	158(基礎 24 強化 110 時間外 24)	19	5.7
R2.12	207(基礎 33 強化 137 時間外 37)	19	7
R3.1	181(基礎 39 強化 103 時間外 39)	18	7.8
R3.2	(基礎 4 強化 117)	18	7.5
R3.3	(基礎 9 強化 126)	23	5.2

※時間外:15時から16時半までの利用

◎活動時間

平日 10:00～15:00

15:00～16:30(主に居場所の提供、相談等で利用)

◎活動内容

【創作的活動・生産活動】

- ・創作活動
- ・ハンドメイド
- ・脳トレ
- ・カードゲーム、ボードゲーム

【機能訓練・社会適応訓練】

- ・外食、外出

【本人活動支援事業・生活訓練事業・ピアカウンセリング事業】

ふらっとサークル:クッキング、パン作り、卓球バレー、ピラティス、手話、
フラワーアレンジメント、お茶

ほっとさぼーたーとの交流会

◎広報・啓発活動

- ・パンフレットや月間予定表を関係機関や福祉サービス事業所等に配布。
- ・法人 HP(新着情報)に月間予定表など掲載。

また、活動報告やお知らせなどをふらっとのブログにて掲載。

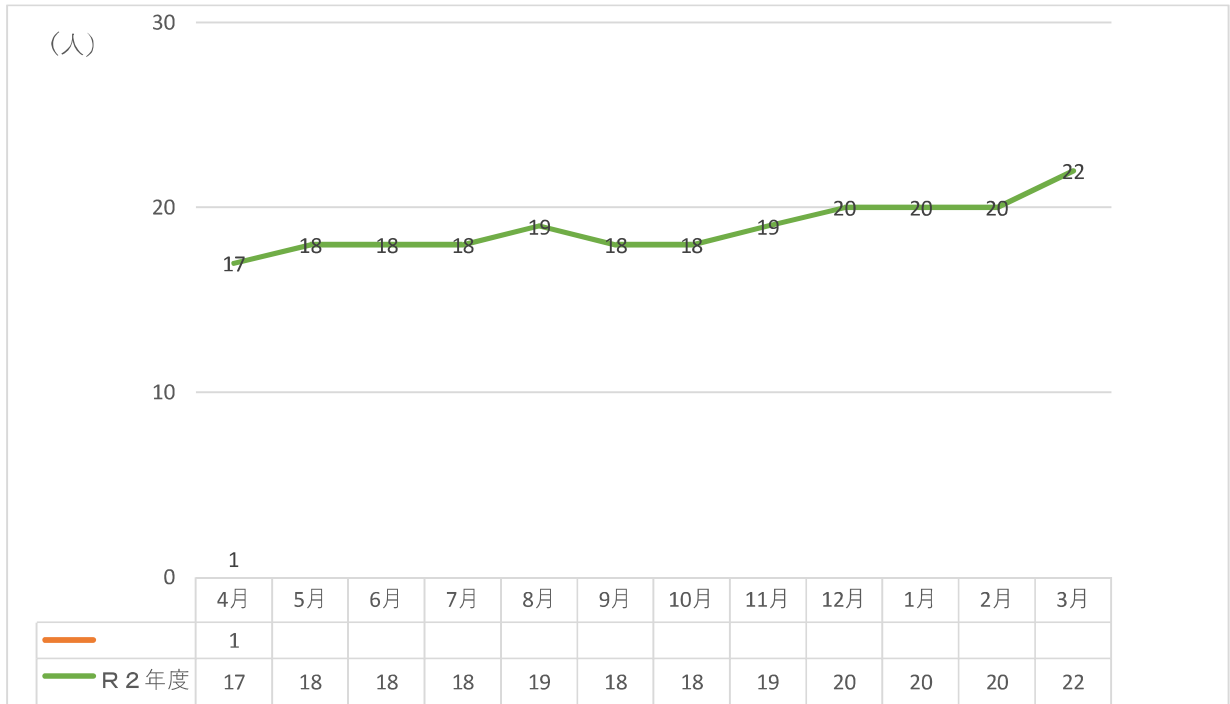
※<https://ameblo.jp/furatto521/>

ヘルパーステーションみらい

表1

利用者数

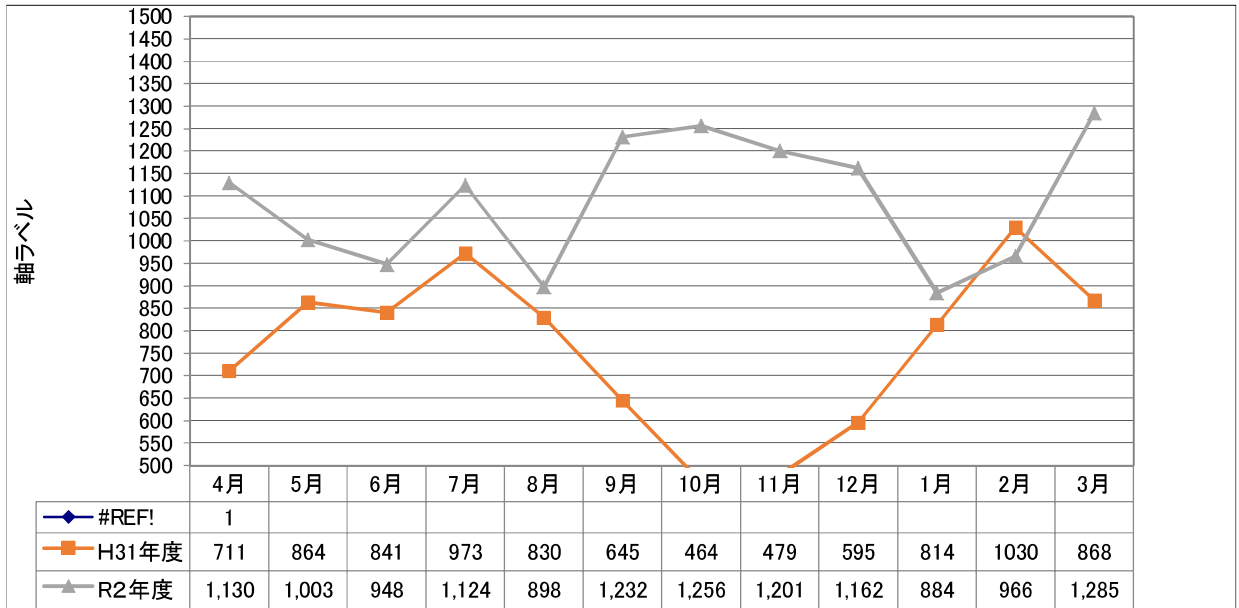
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2年度	17	18	18	18	19	18	18	19	20	20	20	22	227



報酬比較

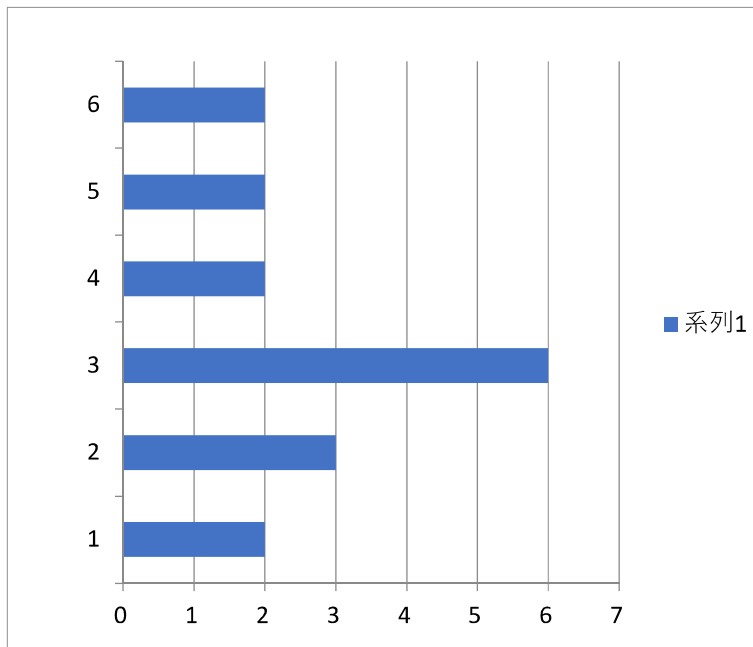
(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2年度	1,130	1,003	948	1,124	898	1,232	1,256	1,201	1,162	884	966	1,285	13,089



R2年度 3月現在の障害区分別人数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	区分なし
2	3	6	2	2	2	3



萩市障害者生活支援センター ほっとすぺーす

➤ 相談支援

○相談件数： 延べ7, 637件

(内訳) 電話：3,758 訪問：2,495 来所：940 FAX：6 メール：257 ピア相談：0
その他：183

○相談者数： 延べ7, 639名

(内訳) 本人：2,477 家族：1,680 学校：55 事業所：1763 保育園：82 幼稚園：41
関係機関：1,523 その他：18

➤ 萩市基幹相談支援センター機能及び萩市委託相談支援事業

207名 (障害者132名 障害児75名)

➤ 指定特定相談支援事業(障害者)及び指定障害児相談支援事業

<サービス等利用計画作成対象数>

	令和2年	令和元年	平成30年
指定特定相談支援事業	271人	237人	326人
指定障害児相談支援事業	154人	163人	174人
合計	425人	400人	410人

<サービス等利用計画作成対象数障害別内訳>

*手帳は重複あり

	身体	知的	精神	発達	合計
指定特定相談支援事業	41人	170人	84人	27人	322人
指定障害児相談支援事業	14人	53人	1人	77人	145人
合計	55人	223人	85人	104人	467人

➤ 指定一般相談支援事業

地域移行・定着支援 0名

- ・基幹相談支援センターとして、萩地域における相談支援の中核的な役割として総合的・専門的な相談支援を担いました。併せて地域の相談支援体制強化の取り組みとして、相談支援従事者連絡会議を開催しました。

➤ 意思疎通支援事業

○萩市手話通訳者設置事業

- ・相談件数：1221件（派遣に関わる調整も含む）
- ・専任者通訳：70件

○意思疎通支援者派遣事業

- ・手話通訳派遣：214件（延241名）
- ・要約筆記派遣：11件（延44名）

○意思疎通支援者養成事業

- ・手話奉仕員養成講座開催：令和2年5月～令和3年2月
今年度はコロナ感染症対策のため、講座は中止となりました。

※意思疎通支援事業は今年度をもって終了となります。次年度より萩市の事業として運営を行こととなりました。

➤ 他機関の会議等へ出席

○萩市自立支援協議会 定例会	年1回
○萩市自立支援協議会専門部会（相談・就労・子ども）	月1回
○萩圏域関係機関連絡調整会議	年1回
○萩市子ども・若者総合サポート会議・研修会	年1回
○障がい者就業支援関係機関連絡会	年1回

➤ 職員業務研修（相談援助技術に係る研修、障がい全領域に係る専門研修）

○主な研修派遣

・相談支援従事者初任者研修（4日間）	0名
・相談支援従事者専門コース別研修（障害児支援）	2名
・相談支援従事者専門コース別研修（地域移行・定着）	2名
・相談支援従事者現任研修（3日間）	0名
・相談支援従事者専門コース（スーパーバイザー・3日間）	1名
・平成31年度 精神保健福祉関係者 基礎研修（2日間）	1名
・令和元年度 医療的ケア児等支援者養成研修 ・コーディネーター養成研修（4日間）	0名
・令和2年度山口県障害者虐待防止・虐待防止マネージャー研修	1名
・令和2年度強度行動障害支援者基礎研修	1名
・令和2年度強度行動障害支援者養成実践研修	1名

ふたば園障害者就業・生活支援センター ほっとわーく

➤ 総括

センター事業開始から 12 年目となった令和 2 年度も昨年に続き、精神障害や発達障害の方との繋が

りが多くありました。就労支援の中では、特に精神面での不安定な方の支援は変わらず定着の難しさを痛感します。

また、コロナ禍で職場見学や実習が難しい状況が続き、委託訓練 4 件、職業評価 1 件に留まった。。

活動では、元年度から追加された求職者に対する事業(ピアサポート活動)を、萩長門圏域において計 4 回実施した。

予定をしていた圏域外・県外の研修について、コロナ禍で自粛中止をしたものがある。

オンラインによる支援者同士の会議が 4 件、事業主への定着支援を 1 件実施した。

➤ 障害者に対する相談・支援

○支援対象障害者数 184 人

○相談支援件数 2,539 件

○就職件数 19 件

➤ 事業主に対する助言

○支援対象事業所数 66 事業所

○相談支援件数 599 件

➤ 職場実習および障害者委託訓練等のあっせん

○あっせん件数 11 件

➤ 雇用安定事業

	開催日	参加人数	実施内容	実施場所
第 1 回	令和 2 年 8 月 23 日	5 名	感染症対策について(萩)	萩市
第 2 回	令和 2 年 10 月 4 日	5 名	感染症対策について(長門)	長門市
第 3 回	令和 2 年 12 月 20 日	8 名	語り合おう、わかちあおう	萩市
第 4 回	令和 3 年 2 月 14 日	6 名	語り合おう、わかちあおう	萩市

○職場定着促進のための在職者交流活動の実施

○ピアサポート活動の実施

	開催日	参加人数	実施内容	実施場所
第1回	令和2年6月13日	12名	在職者からのアドバイス(萩)	萩市
第2回	令和2年7月11日	4名	働くことを考える(萩)	萩市
第3回	令和2年8月8日	4名	働くことを考える(長門)	長門市
第4回	令和2年11月14日	3名	在職者からの体験談(長門)	長門市

○関係機関との連絡会議の開催

- ・障がい者就業支援関係機関連絡会 実行委員会

	開催日	参加人数	協議内容
第1回	令和2年4月10日	12名	令和2年度計画、連絡会案について
第2回	令和2年7月10日	13名	連絡会について
第3回	令和2年12月4日	9名	連絡会の振り返り、次年度計画について

- ・障がい者就業支援関係機関連絡会

	開催日	参加人数	テーマ	開催場所
	令和2年10月29日	38名	講演「就労パスポートについて」ハローワーク萩末次氏 「障がいのある方が自分らしく活躍するための取り組み」SJA伊藤氏	萩市民館小ホール

※連絡会議を通じて担当者顔の見える関係作りができ、対象者支援の際に必要な情報提供や機関連携がスムーズに出来、就労だけでなく生活面での支援にも役立っている。

○事業主に対するネットワーク支援活動の実施

・障がい者おしごとネットワーク北浦 実行委員会

	開催日	参加人数	協議内容
	令和2年4月10日		新型コロナウイルス拡大防止のため延期
第1回	令和2年7月1日	12名	令和2年度計画、懇話会についての打ち合わせ
第2回	令和3年2月10日	10名	懇話会の反省、見学会の打ち合わせ、次年度日時決定 見学会の反省、次年度の企画について

・障がい者おしごとネットワーク北浦 研修会

	開催日	参加人数	開催内容
第1回	令和2年9月11日	26名	萩総合支援学校高等部作業学習見学 座談会「卒業生と共に働いてみて」 萩テレビ（株）中嶋氏、廣中氏
第2回	令和2年11月12日	34名	北浦地域の企業懇話会、意見交換 講演 「就労パスポートについて」 ハローワーク萩末次氏 「障害者雇用の取り組みについて」 フジミツ（株）伊藤氏

ジョブコーチ支援事業

○支援対象者数：0名

○職業評価依頼件数：1名

➤ 広報・啓発活動

○季刊誌発行 年2回

○法人HP（新着情報）への行事報告掲載 年9回

➤ 職員業務研修

○中四国ワーカー連絡会 0名

○主任職場定着支援担当者交流会（ZOOM）1名

○中国近畿ブロックWEB会議 1名